

# カラーデザインの変遷と最新動向

## The Transition of the Color Design and the Latest Trend

松原 千春

キーワード：自動車のカラーデザイン、カラートレンド変遷、最新カラー、自動車塗料、  
塗装の歴史

Keywords: Automotive Color Design, Color Trend Transition, The latest Color,  
Automotive Body Paint, Coatings History

### 1. はじめに

今日、自動車は新しい時代を迎えている。動力の歴史を振り返れば、紀元前より馬を用い、18世紀の産業革命期に蒸気へと大きなステップを経て誕生した自動車は、その後、内燃機関を搭載し現在まで続く自動車の概念を形成した。そして今日、地球環境保護の観点から、代替燃料、ハイブリッド、電気といった新しい動力とそのシステムの技術力に支えられた環境配慮車の時代を本格的に迎つつある。また、自動車に対する価値観にも大きな変化が現れはじめ、超小型車に代表される新しいセグメントの出現など、スモールからラグジュアリーといったこれまでのセグメントの更なる細分化と拡大が進み、カーシェアリングのように自動車を共有する使い方が身近になりつつあり社会生活にまで変化をもたらしている。一方、自動車販売の堅調な新興国では中間層への普及拡大とともに、より上位モデルへのニーズの高まりも見られる。このような、技術の進歩、ニーズの変化と市場の拡大といった自動車を取り巻くあらゆる変化は、モデルのデザインやカラーにも影響を及ぼす。時代を反映する自動車のカラートレンドはどのよ

うに変化してきて、これからどこに向かっていくのだろうか。日本の自動車市場やカラートレンドの歴史を振り返りながら、最新動向をみていく。

### 2. 戦後から1980年までの日本のカラートレンド

ここでは、時代の気分と、日本の高度成長期に活発化したカラートレンドの関連性と、確立していく塗装の基礎を紹介する。

#### 2.1 マイカーブームとカラー化

日本では、終戦後しばらくの間、私用のモデルは少なく公用車が主流であったため、乗用車生産が本格化するまではほとんどがブラックであった。このブラックは、中塗りの上にブラック顔料のベースを塗装するシンプルな工程のソリッドカラーで、現在の多くのブラックに使用されているパールやアルミフレークなどは使われなかった。1960年代になるといざなぎ景気とともに高度成長期を迎え、1967年には自動車生産台数世界第2位となる。車、エアコン、カラーテレビは新三種の神器とよばれ、増加する中産階級に普及していった。いわゆる“マイカーブーム”が到来した。社会の気分も高揚し、様々な商品で原色調が流行し、鮮やかな色彩がファッションなどでも現れた。ちょうど現在の新興国のように、自動車を所有することに喜びを感じ、

2013年10月4日受付  
MATSUHARA Chiharu